

中央支所リポート ③⑧ 大津発見！

「梅の造花」は、梅の生木の枝に「蓮草紙(つうそうし)」という紙で造られた花やつぼみをつけた、精巧な“造り花”です。

その歴史は江戸時代が始まりとされています。蓮草紙は明治の末、造花の職人が台湾を訪れた際に見つけました。一時期、入手が難しくなり、梅の造花が途絶えた時期がありましたが「この素晴らしい文化を途絶えさせてはならない」と、声を上げた有志たちの長い年月の努力により、再び台湾から蓮草紙を入手し、復活させました。その後も梅の造花には蓮草紙が使い続けられ、台湾との交流も続いています。

「梅の造花」を展示してある大津町文化伝承館を訪ねました。

この伝統を守るために「肥後大津民芸造花保存会」が昭和47年に発足し、現在は14人の会員さんが活動されています。保存会では「大津地蔵祭り」「からいもフェスティバル」「町の文化祭」の展示のための作品作りや、小・中学生、大人向けの体験会(梅の花のお正月飾り・ミニ盆栽などのワークショップ)をされています。※活動日は大津町歴史文化伝承館で、毎月第1、3土曜日(午前10時～午後3時)。随時会員を募集されているそうなので、興味のある方はぜひご参加ください。

あとがき 大津町で育った私にとって『梅の造花』は目にすることも多く、小学生のころ花作り体験をしたこともよく覚えていて身近に感じていました。ところが、大人になりなかなか手に入る機会も減っていきました。今回、保存会の方々のお話を聞き、制作の様子も拝見し、材料のことやパーツ作りの細かい作業など貴重な経験ができました。

追伸 新規会員の太田黒さんは甘藷農家さんです。町外から嫁いでこられ、大変興味を持たれたそうです。

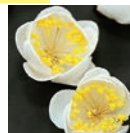


大津町の無形民俗文化財 『梅の造花』



リポーター

大津中央支所金融共済課貯金係 藤崎 華



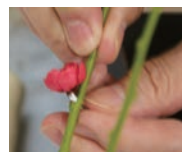
藤崎 師範
河北 昭子さん

藤 友里江さん
師範 福田 ユリ子さん

大久保 千代美さん
師範(保存会会長) 新開 ツキ子さん



パーツ



※蓮草紙原料(木の芯から作られています)